

# 令和4年度第1回 浜松市障がい者自立支援協議会企画会議会議録

1 開催日時 令和4年5月26日(木) 午前10時00分～11時30分

2 開催場所 浜松市役所 32会議室

### 3 出席状況

エリア連絡会名	所属	出席者氏名	
中エリア連絡会	中障がい者相談支援センター	藤川 晴海	
	中区社会福祉課	飯塚 康敬	
東エリア連絡会	東障がい者相談支援センター	平野 明臣	
	東区社会福祉課	久野 加津夫	
西・南エリア連絡会	西・南障がい者相談支援センター	後藤 翔一朗	
	西区社会福祉課	宮本 明浩	
	南区社会福祉課	内藤 淳	
北エリア連絡会	北障がい者相談支援センター	本宮 早奈映	
	北区社会福祉課	欠 席	
浜北・天竜エリア連絡会	浜北・天竜障がい者相談支援センター	大柳豆 勇太	
	浜北区社会福祉課	島田 佐栄実	
	天竜区社会福祉課	内山 敦子	
	相談支援事業所シグナル	尾関 ゆかり	
		阿部 祥美	
事務局	障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	
		山下 由佳	
		岸 直樹	
		玉澤 卓也	
		大軒 優一	
	障害保健福祉課	総務調整グループ	宮本 健一郎
		生活・就労支援グループ	柴田 多美子
			中尾 聡子
			青柳 聖弥

#### 4 議事内容

- (1) 令和4年度協議会スケジュールについて
- (2) 専門部会報告
  - ・虐待対応ワーキング
  - ・計画相談ワーキング
  - ・こどもワーキング
- (3) 委託相談評価ワーキングの最終報告
- (4) その他

5 会議録作成者 障害保健福祉課生活・就労支援グループ 青柳

6 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無

#### 7 会議記録

##### (1) 令和4年度協議会スケジュールについて

資料を元に担当者より説明

- ・第1回市全体会は8月22日午前中に開催予定。
- ・日中サービス支援型グループホーム評価のスケジュールについて再確認。昨年度の企画会議で共有した内容に変更はない。評価結果シートは10月末までに市協議会事務局へ提出いただくが、可能な限り出来上がり次第提出願いたい。

<質問・意見>

- ・評価基準について、参考にできる指標はあるか。昨年度、評価の着眼点に困ったという話が出ていた。

→要検討。

- ・昨年度の流れを汲みながらになるが、評価を行うのかエリアでの意見交換として行うのが定まってくると必要性が明確になる。

- ・現時点での各エリアのスケジュールについて

中エリア：第2回エリア連絡会（9月末）を想定。

北エリア：今年度は見学会もかねて意見交換する予定。実施方法については第1回全体会で協議予定。

東エリア：9月頃、全体会ではなく評価の枠だけで実施することを検討中。

西・南エリア：全体会とは別の、ワーキングという形での実施を検討中。

浜北・天竜エリア：今年度の実施はないが、来年度は実施することになる。全体会を年3回開催して8,9月の全体会で協議することを検討中。

## (2) 専門部会報告

### ○虐待対応ワーキング

資料を元に担当より説明

- ・活動内容について、進捗管理の場については今後協議予定。
- ・合同研修について、6月29日に研修会を開催予定。後半部分が完成した上で研修を実施するかは検討中。
- ・手引書等については8月に完成予定だが、引き続き検討が必要な課題や次年度に向けた取り組みを含めて検討していく。

### ○計画相談ワーキング

資料を元に担当より説明

<意見>

- ・基準はあった方が良く、望ましい形だと思われる。肌感覚だが、サービスの増加に相談員の数が見合っていないところが懸念される。
- ・元々計画難民の解消に向けてというテーマがあった。それをベースに持ちながらも根本の解決には現段階では至るものではなく、サービスをスムーズに受けられないことで不利益が生じる人を少なくしようというのが現状の検討事項になっている。
- ・児童の通所サービスを新規で希望しているが計画相談が見つからないというケースが非常に多い。ワーキングでは児童の通所サービスについてどのように検討しているか。

→計画相談が見つからない場面として想定されるのが児童の通所サービスと就労系福祉サービス。まずはより不利益が生じやすいケースに焦点化して取り組み、手法や注意すべきところを明確にしていきたい。また、現在の委託センターの状況では業務が回らなくなってしまう可能性があるため、実情を踏まえて検討していけたらと思う。

- ・サポートプラン作成機関はどこを想定しているか。

→5月のワーキングで協議。考え方としては中立公平という視点から作成機関の役割を担うことが困難な機関もあると思われる。委託センターと区窓口で協力して実施することを検討している。なお、区窓口が担うには様式等の工夫が必要だと考えている。

- ・サポートプランを活用する見極めは？

→実際に計画を立てる事業所を見つけた上で計画作成までの期間をサポートするもの。あらかじめ計画相談を決めた上でサポートプランを立てるイメージ。利用開始日を最優先し、その人に合った計画相談支援事業所につなぐ。

- ・アセスメントが不十分にならないか。本人にとって適切なサービス提供になるのか懸念される。

→サポートプランの目的はサービス利用開始日が主である。担当者一人でサポートプランを作るというよりは担当者会議を必須にしてアセスメントを高め、計画相談には再アセスメントしてもらう。サポートプランを行政単独で立てることは想定していない。

・実態調査の結果によってはサポートプランは不要という判断にもなるか。

→そもそも計画難民問題ありきで進んでいる話であり、地域からもそういった声が多数挙がっている中で進めてきている。一度調査をしたところでも計画難民問題がありそうだといいところまでは結論として出ている。今回の調査は本庁の方で改めて調査したいという意向の中で始めているところ。

→誕生日月の申請が開始されたところで、そこでどこまで均されているか確認しながら、行政内で検討した結果をワーキングに戻す形になる。

・計画相談のスキルアップという側面と、下請け化してしまうのではという懸念もある。

・委託センターの業務が圧迫されており、どこまで受けられるのかも懸念している。

#### ○こどもワーキング

・18歳からの移行について話を進めてきたが、実態がわかっていない。計画相談の困り感を調査した上で、ワーキングの設置も含めて検討したい。近日中に調査を実施したい。

<意見>

・調査の内容や評価も含めてワーキングで進めていくのがよいのではないか。

・ワーキングの目的は企画会議で整理して協議してきた。調査の分析も含めてワーキングで取り組むのが良いのではないか。

→どこを終着点にして進めていくのかを考えた時に実態調査が必要だと考えた。

・前回の企画会議で、「困り感は多種多様であり焦点化は必要。児童相談所が関わった案件は必須であり、児童相談所の現状を知っていく必要がある。」という議論になった。それについてはどうなっているか。

→児童相談所とは協議した。児童相談所に困り感はあまりなく、こちらが困っている内容がわからないと児童相談所としても動きが取れないということだったため、調査を実施して児童相談所との協議を検討していきたい。

・虐待事例について、障害福祉サービス側から見える課題を抽出していく際に、ワーキングの中で行政と支援機関と一緒に整理して焦点化していくとしていた。ワーキングの中で整理をしていく方がよいのではないか。当初の目的を明確にする部分もワーキングのできるのであればやった方がよいのではないか。

・実態調査の内容は？

→昨年度の実態調査。件数、困難と感じた事例があったか、どこに困難感を感じたかを自由記載。好事例についても自由記載。

・様々な事例があるので、子どもに関わっている専門機関であれば調査項目も色々な面から考えられる。それも踏まえて調査項目と一緒に検討する方が安全ではないか。分析にも相当の時間がかかるだろう。

・課題があるのは明確なので、分析も含めて検討していくのであればワーキングで実施するのが良いのではないか。

- ・各機関の役割があり、早期から一緒に考えていきたいというのが出発点である。
- ・児童相談所と障害福祉サービス機関が、お互いの役割（できること、できないこと）を整理し、本人が困らないようにしていくための手立てを考えていくとすれば、協議会がその役割ではないか。
- ・ワーキングのメンバーについて、調査実施後に児童相談所に参加してもらうのも良いだろう。

### (3) 委託相談評価ワーキングの最終報告

資料を元に担当より説明

- ・第三者評価アンケートについて、内容は一律か。

→内容は一律で、団体によって回答する設問が異なる。設問事項について、評価を依頼する機関は多数あるので、専門用語は控えて誰が見てもわかるように作成したが、委託センターの業務や機能がわからないと答えにくい設問はある。

### (4) その他

- ・各エリアで開催されるエリア全体会での市協議会説明資料が欲しい。

→事務局から改めて各区に送付する。

次回企画会議：7月28日（木）10時～ 32会議室